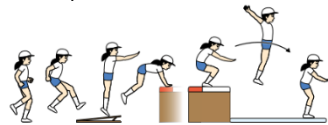
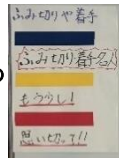


時	1	2	3	4	5	6	7	8
目標	【知識及び技能】 跳び箱運動では、その行い方を知るとともに、自己の能力に適した切り返し系の技（かかえ込み跳び）に十分に取り組んだ上で、それらの発展技に取り組むことができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。							
コア技術	① 踏切を強く踏み切り、踏切後素早く膝を引きつけている ② 腰をしっかりと上げ、体を前方に投げ出している							
めあて	自分のできる技を知り、単元の見通しを持とう。	うさぎ跳びでマットに跳び乗ろう。	うさぎ跳びで跳び箱に跳び乗ろう。	強い踏み切りでより遠くに手を着いて着地しよう。	かかえ込み跳びのポイントを考え、練習しよう。	かかえ込み跳びをしよう。	かかえ込み跳びをしよう。	友だちのいいところを見つけよう。
指導内容	1. 準備運動（加茂小体操） 2. ウサギ跳び→ウサギ跳びから開脚立ち （1）ウサギ跳び 育てる感覚 ➤ 着地をするときは、手を前に出して体を起こすようにすること。 行い方 ① 前方に跳んで両手を着き、体を起こして着地することができるようになってきたら、前方に大きく跳んで両手を着き、手を着いた位置よりさらに前方に着地する。 （2）ウサギ跳びから開脚立ち 育てる感覚 ➤ 脚を開いて着地する動作を覚えることで、跳び箱に移行しても安心感を持てるようにする。 かかわりあい ※ 4人1組で①跳ぶ②待つ③声掛け④声掛け2 声掛け①…跳ぶ瞬間に「手、ひざ」の掛け声で、より遠くへの着手を目指し、膝の引きつけにも意識を向ける。 声掛け②…跳び下りの時に、跳ぶ児童の少し前に立ち、「目線！」の声掛けで、顔を上に向けるようにする。 3. 学習のまとめ 4. 振り返り	1. 準備運動（加茂小体操） 2. ウサギ跳び 3. 跳び箱への跳び乗り・下り  ① 正座で乗る ② 足裏で乗る ③ 手を着いたところに足を着地する かかわりあい 声かけ ・ ②足裏で乗る③手を着いたところに足を着地するときに、跳び箱に貼ってある3色のテープを目印にしてより前に着手するように色を伝えてあげる。 4. 学習のまとめ 5. 振り返り 	1. 準備運動（加茂小体操） 2. ウサギ跳び 3. 横向きの跳び箱でかかえ込み跳び  ➤ コア技術①②を意識させる かかわりあい 4人1組で①跳ぶ②待つ③声掛け④声掛け2 声掛け① 跳ぶ瞬間に「手、ひざ」の掛け声で、より遠くへの着手を目指し、膝の引きつけにも意識を向ける。 声掛け② 跳び下りの時に、跳ぶ児童の少し前に立ち、「目線！」の声掛けで、顔を上に向けるようにする。 4. 学習のまとめ 5. 振り返り	1. 準備運動（加茂小体操） 2. 跳び箱を踏み切り板のかわりにして ポイント：踏切位置を高くして腰を上げ、膝を引き付ける  かかわりあい (6人1組で①跳ぶ②③待つ④声掛け⑤声掛け2⑥アドバイス) 声掛け① 跳び終わった児童が次の人と跳び箱をはさんで反対側に立ち、着手の後に「目線！」と声をかけて前を向かせる。 声掛け② 「ドン（踏み切り）、パン（着手）、ピタ（着地）」の掛け声で強い踏み切り、突き放し、着地を止めることを意識させる。 アドバイス役…跳ぶ児童のペアが跳び箱の横で、踏み切り位置や着手の位置を見ておき、アドバイスをする。 4. 学習のまとめ 5. 振り返り	1. 本時のめあての提示 発表方法の確認 2. レベルに合わせた練習 3. 発表会 VTRの確認 技の出来映えについて助言し合う。 4. 学習のまとめ 5. 振り返り			
	ウサギ跳び→コア技術①の習得を意識する →膝をすばやく胸に引き付ける動作を意識させるために「かかとが尻にくつつくらい引き付ける！」というイメージを伝える。 発展うさぎ跳び10メートル走…10メートルを何回跳んで越えられるか。 ※ 慣れてきた児童には、遠くに着手したり、腰を肩より上にあげたりなど、より実際に近い動作をさせるようにする。	跳び箱への跳び乗り・下り →コア技術②腰をしっかりと上げ、体を前方に投げ出しているの習得を意識する。	○ 怖くて跳び乗ることができない ⇒より低い高さで挑戦し、だんだん高さを高くする。 ○ 怖くて跳び下ることができない ⇒低い高さで挑戦し、それでも怖い児童には教師がついて補助する。 ○ 跳び乗りができた児童は、より遠くに跳び乗る練習をする。 ○ 踏切台が両足で踏み切れず片足で踏切台にのってしまう。 ⇒マットからマットに移る練習をし、着地を両足でする癖をつける。	○ 跳び箱からの落下が怖い セーフティーマットや通常のマットを横にしくことで落ちた時の恐怖をなくす。 ○ iPadを使って自分の技を見て何ができていて何ができていないかを話し合う。また、できている子の動画を見てなぜできているかを話し合う。 				
知		② 観察・ICT					② 観察・ICT	① 観察
思			① 観察			① 観察		
態	④ 観察	③ 観察		① 観察・カード	② 観察・カード		⑤ 観察	

単元の評価規準

【かかえ込み跳び（跳び箱運動）】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① かかえ込み跳びの行い方について、言ったり書いたりしている。 ② 助走から両足で踏み切って着手し、足をかかえ込んで跳び越し着地することができる。	① 上手くできたところやできなかったところを，学習カードや掲示物などの連続図に目印や色をつけたり，シールを貼ったりして，自己の能力に適した課題を見付けている。 ② 手の着く位置や着地する位置，目線が向く場所などに目印をして，技のできばえを振り返り，自己の能力に適した課題を解決しやすい練習の場を選んでいる。 ③ 友達の手に着く位置や着地する位置，目線が向く場所に目印を置いて，動きのできばえを友達に伝えたり書いたりしている。	① かかえ込み跳びに進んで取り組もうとしている。 ② 場の正しい使い方や試技をする前の待ち方，技を観察するときなどのきまりを守り，誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 ③ 場の準備や片付けを，友達と一緒にしようとしている。 ④ 動きや気付いたことを伝え合う際に，友達の考えを認めようとしている。 ⑤ 場の安全に気を付けている。

【単元の評価規準を基にした「十分満足できる姿」】

（１）知識・技能

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① かかえ込み跳びの行い方について、言ったり書いたりしている。	・ かかえ込み跳びの留意点を友達や教師に詳しく伝えたり，カードに書いたりすることができる。
② 助走から両足で踏み切って着手し、足をかかえ込んで跳び越し着地することができる。	・ 助走から両足で強く踏み切り，腕を上げて上から大きく着手をすることで第一空間を大きくした後突き放しと同時に視線を前に向け体を起こす大きなかかえ込み跳びができる。

（２）思考・判断・表現

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① 上手くできたところやできなかったところを，学習カードや掲示物などの連続図に目印や色をつけたり，シールを貼ったりして，自己の能力に適した課題を見付けている。	・ かかえ込み跳びを習得するためにはどのような動きが必要かを考え，課題に応じて試行錯誤しながら取り組んでいる。
② 手の着く位置や着地する位置，目線が向く場所などに目印をして，技のできばえを振り返り，自己の能力に適した課題を解決しやすい練習の場を選んでいる。	・ 手の着く位置や着地する位置，目線が向く場所などに目印をして，技のできばえを振り返り，自己の動きをよりよくする行い方を選んでいる。
③ 友達の手に着く位置や着地する位置，目線が向く場所に目印を置いて，動きのできばえを友達に伝えたり書いたりしている。	・ 友達のよい動きの特徴を，擬態語や身振りなど多様な表現を用いて具体的に友達に伝えたり，カードに書いたりしている。

（３）主体的に学習に取り組む態度

単元の評価規準	「十分満足できる姿」
① かかえ込み跳びに進んで取り組もうとしている。	・ かかえ込み跳びへの習得に向け多様な行い方を選んで試している。
② 場の正しい使い方や試技をする前の待ち方，技を観察するときなどのきまりを守り，誰とでも仲よく励まし合おうとしている。	・ 自分が楽しむだけでなく，グループの友達を励ましたり，応援したりしている。
③ 場の準備や片付けを，友達と一緒にしようとしている。	・ 場の準備や片付けを率先して行っている。
④ 動きや気付いたことを伝え合う際に，友達の考えを認めようとしている。	・ 動きや気付いたことを伝え合う際に，友達の課題を自分事として捉えその解決方法を考えている。
⑤ 場の安全に気を付けている。	・ 自分のことだけでなく，周囲の安全にも気を配っている。

※ 学習指導要領解説の技の例示とは異なった学年で授業を計画しています。その理由は以下の２点です。

- ① 器械運動の技を系統的・段階的に習得するため。
- ② 器械運動の授業を学年間で偏りなく行うため。